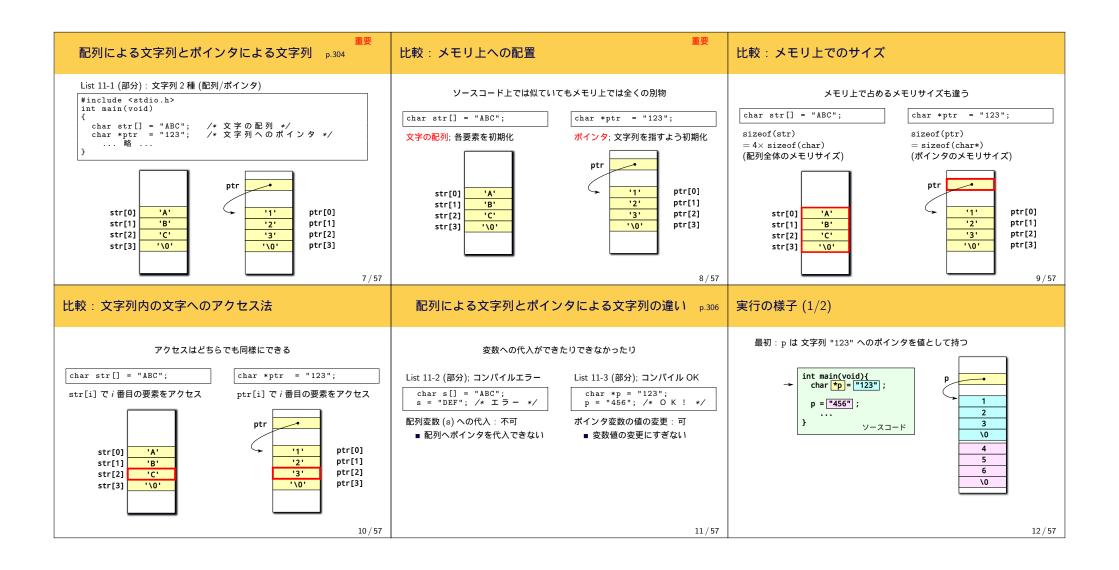
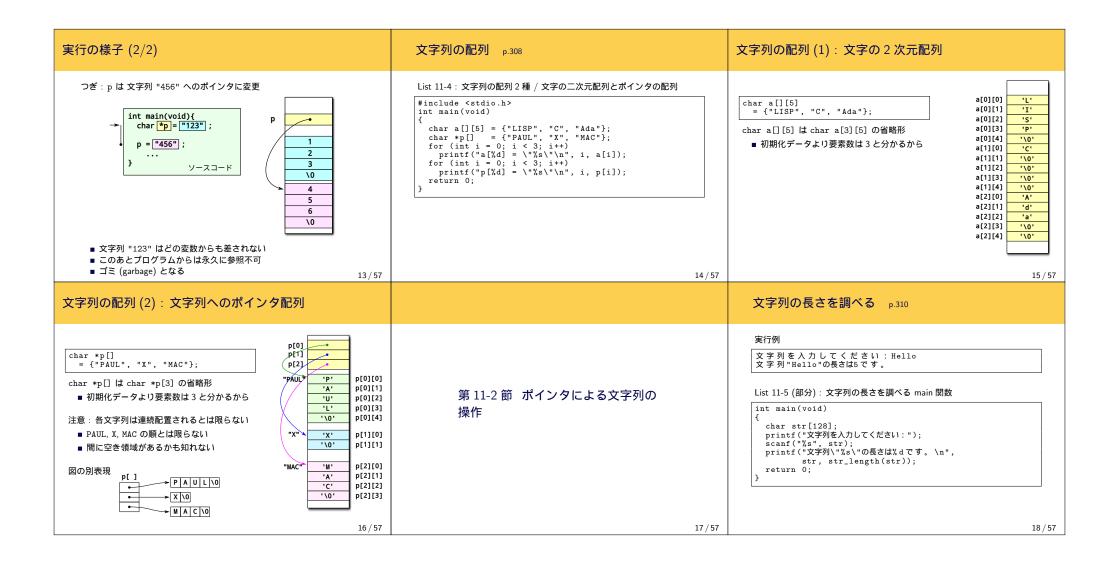
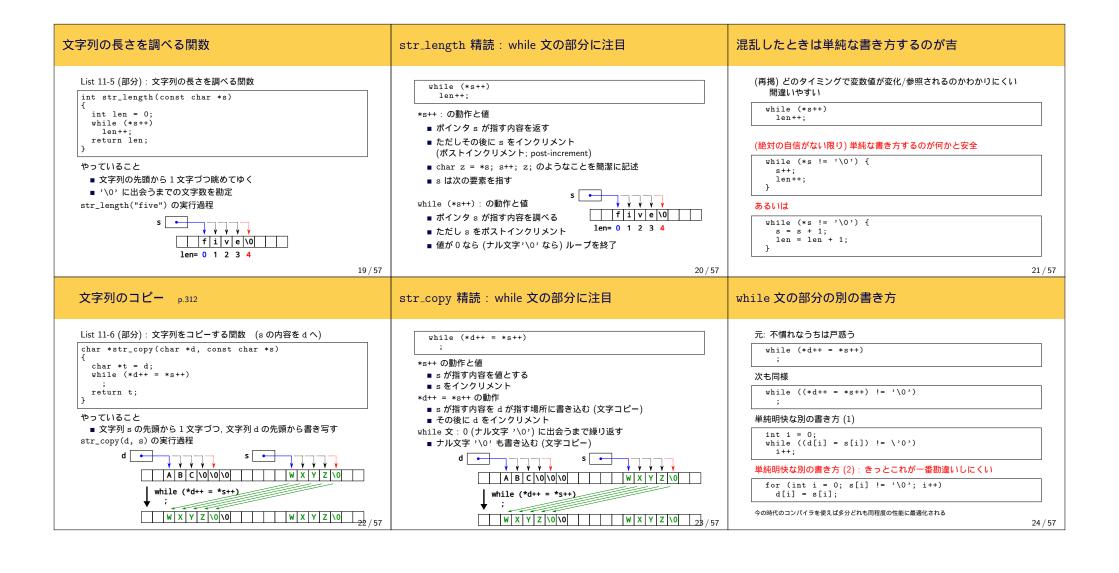
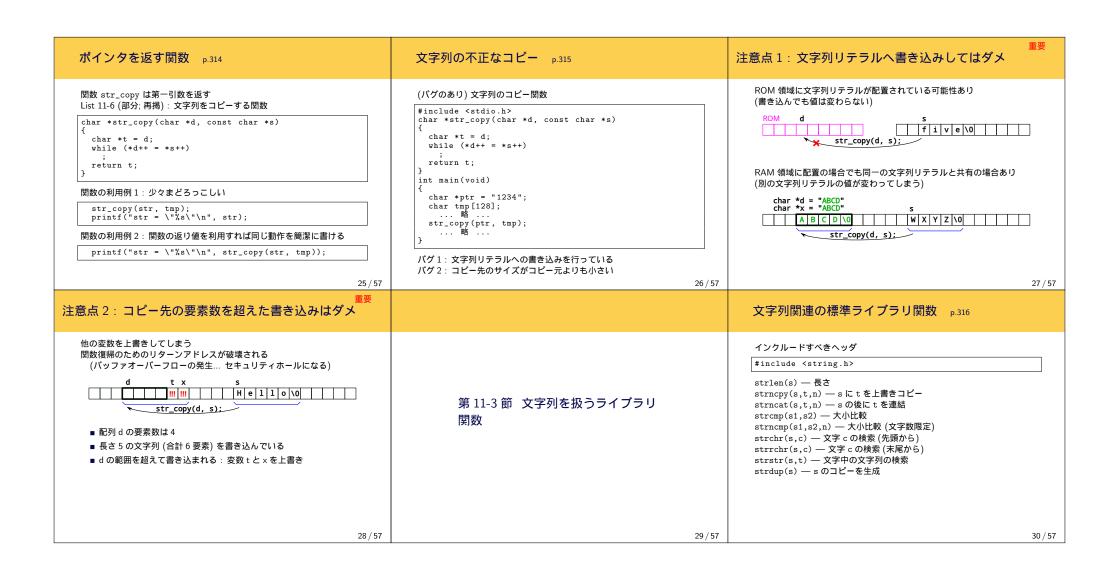
	もくじ	今回 (#09) の内容:シラバスでの該当部分		
#09 文字列とポインタ 2022 年度 / ブログラミング及び実習 III 角川裕次 ^{龍谷大学 先満理工学部}	■ 第 11-1 節 文字列とポインタ ② 第 11-2 節 ポインタによる文字列の操作 ③ 第 11-3 節 文字列を扱うライブラリ関数 ■ 使用しない方が良い関数 ③ (独自) 文字列のプログラミング ■ 文字列の照合	小テーマ: 文字列とポインタ 第 15 回:文字列を扱う標準ライブラリ関数		
1/57	2/57	3/57		
 配列による文字列 / ポインタによる文字列 メモリ上での文字列の配置 文字列リテラルは書き換え禁止 文字列関係のライブラリ関数群 strcpy と strcat はパッファオーパーフローの危険性あり 文字列から数値へ変換する関数群 	今回の実習・課題(manaba へ提出) 実習内容と課題内容は講義途中に提示します (作成したファイル類は manaba に提出)	第 11-1 節 文字列とポインタ		
4/57	5/57	6/57		

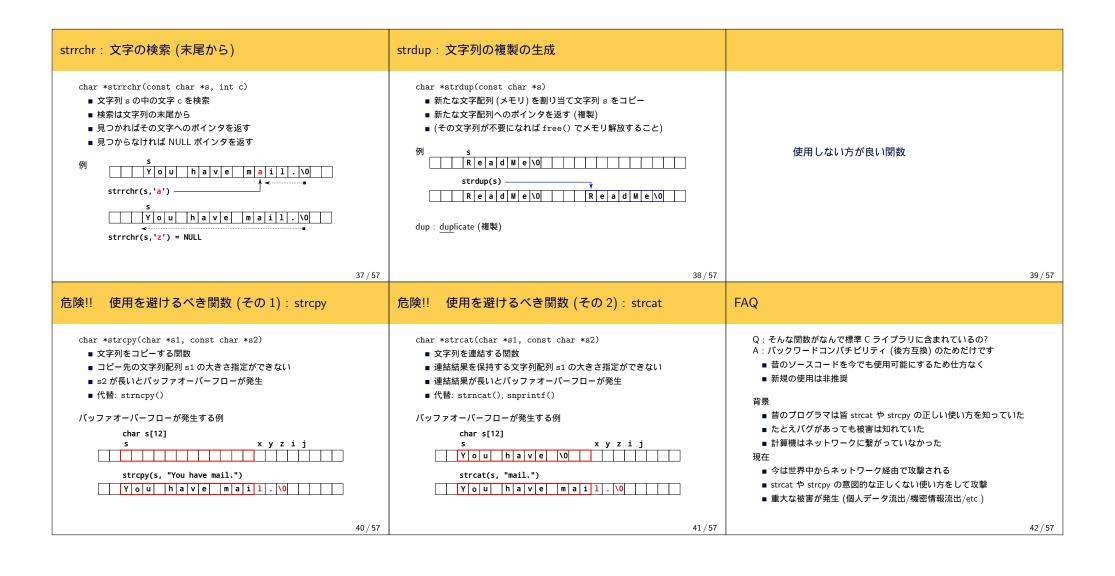


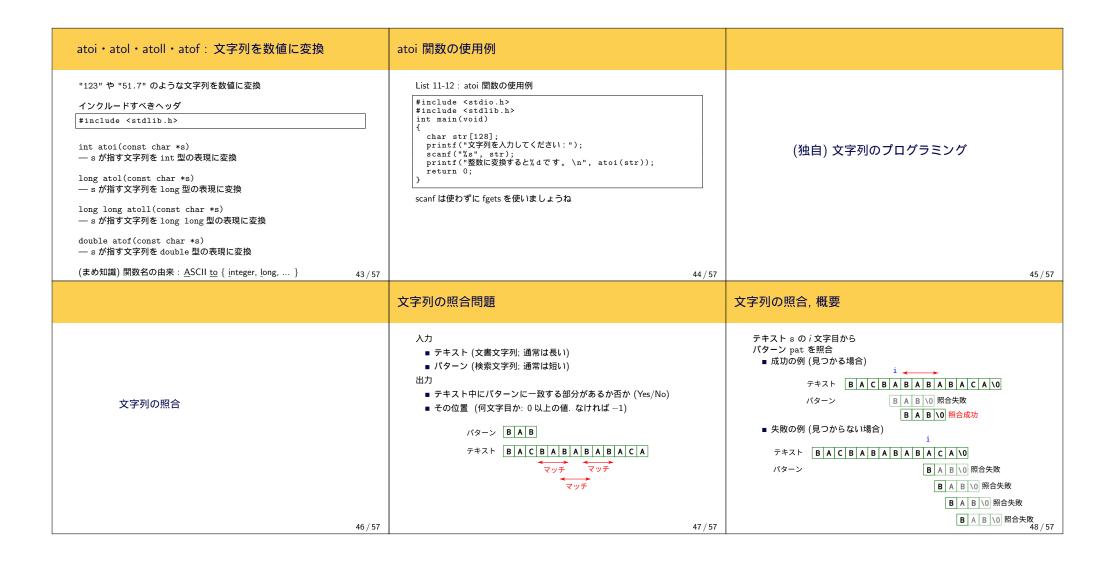












文字列の照合のアルゴリズム 文字列の照合アルゴリズムの利用例 アルゴリズム解説 (0/3) テキスト s の中からパターン pat を検索 場合 0: テキストとパターンの途中で文字が一致 テキスト中に出現するパターンを全てを見つけて表示 ■ ただし文字列 s の i 文字目から検索開始 次の文字を比較 int i = 0: ■ 最初に見つかった場所 (s の添字) を返す (見つからなければ -1) while (i >= 0) { i = str_match(s, i, pat); /*添字 i より照合開始 */ if (i >= 0) { /* 添字 iでマッチ */ int str_match(char s[], int i, char pat[]) B B A B B A printf("MATCH POSITION: %d\n", i) 文字が一致 for (int j = i; s[j] != '\0'; j++) { B B A B \0 パターン i++; /*次の検索開始位置*/ 照合を継続 of (int k = 0; ; k++) { if (pat[k] == '\0') { /* patの終端 */ return j; /* 照合成功; マッチした位置 */ } /* i<0ならマッチする場所はもう無い */ 0 k if (s[j+k] == '\0') { /* sの終端 */ break; /* 照合失敗 */ -if (s[j+k] != pat[k]) { /* 異なる文字 */ break; /* 照合失敗 */ return -1; /* 照合失敗 */ 50 / 57 51 / 57 アルゴリズム解説 (1/3) アルゴリズム解説 (2/3) アルゴリズム解説 (3/3) 場合1:パターンの終わりに到達 場合2:テキストの終りに到達(かつパターンの途中) 場合3:テキストとパターンの文字が不一致 照合成功 照合失敗 照合失敗 テキストの終わりに到達 B A B B A ... テキスト …「 B A C B A 照合失敗 パターンの終わりに到達 文字の不一致 B A B \0 パターン パターン パターン 照合成功 照合失敗 テキストとパターンは照合できている パターンの全文字が照合できていない パターンの全文字が照合できていない (パターンの途中で失敗していない) (パターンの途中で失敗した) (パターンの途中で失敗した) 52 / 57 53 / 57 54 / 57

	番外編の課題 1			番外編の課題 2		
おわり	文字列前後の不要な空白を void trim_spc_hea の abc abc abc abc abc abc abc abc abc xyz " abc xyz " " "abc " abc " abc			2 つ以上続く空白を1つにす ■ void uniq_spc(char) 例 "abc xyz hij" " abc" "abc xyz " " abc xyz " " abc xyz " "" "abc xyz " ""		
55 / 57	auc xyz	and Tyz Waka	56 / 57			57 / 57